

鹿児島市火山防災トップシティ構想(素案)に係るパブリックコメント手続における意見及び対応状況一覧

- 1 意見の募集期間           平成30年12月20日(木)～平成31年1月24日(木)
- 2 意見の提出者数           12人
- 3 意見の件数                59件
- 4 意見の対応状況

対応区分	件数
A 意見の趣旨等を反映し、構想の素案に盛り込むもの	8 件
B 意見の趣旨等は、構想の素案に盛り込み済みのもの	6 件
C 構想の素案に盛り込まないもの	1 件
D 具体的な事業の実施にあたり参考とするもの	18 件
E その他要望・意見等	26 件
計	59 件

## 鹿児島市火山防災トップシティ構想（素案）に係るパブリックコメント手続における意見及び対応状況一覧

項目

項目	件数
① 「第1章 構想策定の趣旨」について	8
② 「第2章 本市を取り巻く状況」について	9
③ 「第3章 基本的な考え方」について	5
④ 「第4章 取組の柱と方向性 【取組の柱1】大規模噴火でも「死者ゼロ」を目指す防災対策」について	12
⑤ 「第4章 取組の柱と方向性 【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	10
⑥ 「第4章 取組の柱と方向性 【取組の柱3】「鹿児島モデル」による世界貢献」について	4
⑦ 「第5章 推進にあたって」について	3
⑧ 構想全般について	7
⑨ その他	1
合計	59

対応区分別項目数、件数

対応区分	件数
A 意見の趣旨等を反映し、構想の素案に盛り込むもの	8
B 意見の趣旨等は、構想の素案に盛り込み済みのもの	6
C 構想の素案に盛り込まないもの	1
D 具体的な事業の実施にあたり参考とするもの	18
E その他要望・意見等	26
合計	59

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
1	「第1章 構想策定の趣旨」について	「3 期間」に、「※ 本書の元号については、本構想策定時点のものを使用しております。」と追記した方がよい。	ご意見のとおり追記します。	A
2	「第2章 本市を取り巻く状況」について	記録に残されている大噴火には天平宝字噴火(764年)もあります。文明・安永・大正と含めて四大噴火と呼ばれます。このような大規模噴火は、膨大な軽石の噴出（プリニー式噴火）で始まり、最終的には溶岩の流出で終わるといって推移をたどっています。昭和21（1946）年の昭和噴火は山頂に近い側火口から溶岩を流出しましたが、軽石噴火を伴っていないため、火山学では大噴火とは扱っていません。この文章では溶岩流出やその被害が強調されていますが、軽石のことももっと触れた方がよいと思います。	大規模噴火においては、火山灰だけでなく軽石も降下することがあまり知られていないことから、ご意見を踏まえ、大正噴火の事例を紹介する中に「このほか、黒神の埋没鳥居が物語っているように、多いところでは大量の軽石や火山灰が2メートルも降り積もりました。」と追記します。	A

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
3	「第2章 本市を取り巻く状況」について	「さらに大正噴火が収まった大正4（1915）年以降現在までの約100年間は、始良カルデラ周辺の地盤が隆起してきており、」とあるが、「約100年の間に、地下のマグマだまりに多量の溶岩が蓄積され、始良カルデラ周辺の地盤が隆起してきており、」とした方がよい。	始良カルデラ周辺の地盤が隆起している要因にも触れた方がわかりやすいと思われることから、ご意見を踏まえ、「約100年の間に、地下のマグマだまりに多量のマグマが蓄積され、始良カルデラ周辺の地盤が隆起してきており、」に改めます。	A
4	「第2章 本市を取り巻く状況」について	「1(2)」の「大噴火への備えが警鐘」が「大噴火がおこった時の準備が整っていないことに専門家が警鐘を鳴らしている」なのか「大噴火をおこす準備が整ってきていることに警鐘が鳴らされている」のか「備えが警鐘」の言葉からは分かりづらく感じました。	ご意見を踏まえ、「次なる大規模噴火への備えが警鐘されている状況です。」を、「次なる大規模噴火への備えが必要な時期に入ったと警鐘が鳴らされています。」に改めます。	A
5	「第2章 本市を取り巻く状況」について	「3 桜島における…」のタイトルですが、「第2章 本市を取り巻く…」の項目であれば、もっと鹿児島市街地まで広げた表現・内容はどうか。	「3 桜島における火山対策」については、島内だけでなく、市街地側の対策も含まれているため、「3 桜島に対する島内外の火山対策」に改めます。	A
6	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	観光客のところに外国人観光客のことも追加してください。北海道地震では、電子決済に頼りキャッシュを持っていなかった中国人観光客が、停電のため大変困ったそうです。ホテルの予約も確認できず、部屋は空いていても現金がないため泊まらなかったり、コンビニで食料すら買えなかったり、と気の毒だったそうです。	外国人観光客も含めて観光客と記載しておりましたが、よりわかりやすくするため、「観光客の対応を含めた、」を「国内外からの観光客への対応を含めた」に、「観光客等の防災対策の充実を目指します。」を「国内外からの観光客への防災対策の充実を目指します。」に改めます。	A
7	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	「関係自治体や防災機関との連携強化」と簡単に書かれていますが、これが機能しないと鹿児島市だけが頑張っても何も出来ません。県がもっと積極的になることが要でしょうか、日置市・薩摩川内市等の北薩地域の自治体には、恐らく大変お世話になるだろうと思います。連携を密にしておく必要があると思います。	本市や桜島の周辺自治体だけでなく、特に大規模噴火時における広域避難の対応等を検討する中では、広く県内の自治体との連携も不可欠であることから、「4 関係自治体や防災機関との連携強化」を「4 関係自治体や防災関係機関との緊密な連携強化」に、「桜島周辺に位置する自治体や防災関係機関との連携」を「桜島周辺のみならず、広く県内の自治体や防災関係機関との連携」に改めます。	A

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
8	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	「4」にある「火山文化」が何を指すのか分かりづらくはないでしょうか。例が一つでもあると分かりやすくないでしょうか。	ご意見を踏まえ、「火山そのものの魅力である火山の恵みや文化（火山地域独特の農林水産物による食文化、火山灰を活用した特産品など）」とを組み合わせ、に改めます。	A
9	「第1章 構想策定の趣旨」について	「1 策定の背景・目的」の4段落目。「行政が一体となって」に市だけでなく県や国も含まれるのかがはっきりしないので、連携を深めるのであれば、明記してはどうでしょうか。	国や県を含めた「行政」として取り組むことを想定したものであり、これまで以上に連携して取り組んでまいりたいと考えております。	B
10	「第3章 基本的な考え方」について	「1 目指す姿」の〈要件〉「火山防災対策はもちろん…桜島火山そのものを理解…」の部分で、火山防災対策は理解しているだけでなく、行動や協力する態度、防災への関心など、多くの要素を含んでいるような印象を受けるので、表現の工夫はできないでしょうか。また、「桜島そのものの理解」が「恵み」の部分だけ強調されているように感じ、「火山災害への恐れ」なども含まなくてよいでしょうか。「複合的に理解」や「多角的・多面的に理解」などの言葉もあればと感じました。	防災の面だけでなく、恩恵の部分も含め、火山をさまざまな要素から理解していくという趣旨で、記載しております。	B
11	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	「1」には国内外の知見や事例をもとに総点検をおこなうとありますが、住民の意見や、住民と協力しながら、といった視点は必要ないでしょうか。	「第3章 基本的な考え方」の「1 目指す姿」に記載しておりますように、構想は市民や地域の方々と一緒に取り組むこととしております。	B
12	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	方向性の中に、国や県との連携が含まれていませんが、計画はないでしょうか。	行政機関に、国や県は含まれているので、特に明記していませんが、連携を密にして取組を進めることとしております。	B

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
13	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	子供の防災教育から始めるしか手がないのかも知れませんが、社会人教育も何とかしたいものです。とくに町内会がうまく機能しているところが少ないのは問題です。自主防災組織を形だけ立ち上げることよりも、地縁社会の復権が求められていると思います。熊本地震で都市部では避難所のストレスを嫌って「軒先避難」という新語も登場しました。直接死の4倍も災害関連死を出してしまいました。危機管理課と市民課が日常から密接に協力して知恵を出し、手を打ってほしいと思います。	市民一人ひとりだけでなく、地域が一体となって防災に取り組むことが重要であると考えております。今後においても、地域防災の核として、自主防災組織の育成・促進に注力してまいります。 また、地域の活性化に向け、地区別防災研修会や市政出前トークなどを通じて地域の防災意識向上に向けた啓発に取り組んでまいりたいと考えております。	B
14	構想全般について	どのように評価するのか、何ををもってトップシティとするのか、ナポリや先進都市と何をどのように比べ評価するのかを決めておいた方がよいと思います。	本市が思い描く火山防災トップシティは、「第3章 基本的な考え方」の「1 目指す姿」に記載しているように、「桜島の大規模噴火に備えるため、火山防災対策がさらに総合的に充実している」か、また、「子どもたちや市民、事業者、防災機関が、火山防災対策はもちろん、なりたちや恵みといった桜島火山そのものを理解している」か、さらには「桜島の火山防災対策が広く発信されるなど、国内外の火山地域の被害軽減のために貢献している」といった点をもって評価することとしております。	B
15	「第3章 基本的な考え方」について	〈…なるための要件〉の言葉も気になります。要件を満たさなければならぬものなのか、誰が要件を満たしたと判断するのかなど、疑問に感じてしまいます。	構想に係る提言を検討する委員会において、トップシティのあるべき姿を思い描く中で、満たすべき姿として、「トップシティとなるための要件」との表現が出されたところであり、引き続き、使用してまいりたいと考えております。	C
16	「第3章 基本的な考え方」について	〈効果〉に書かれていることは、〈二次効果〉のような気がします。トップシティと宣言することで、桜島や鹿児島市に住む住民の安全や安心への意識向上や防災への取組みの充実がまずは期待される効果ではないかと感じました。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
17	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	「6」では、情報発信を報道機関に頼っている印象を受けます。ブログやツイッター、ラインなどのSNSによる自前の情報発信ができないでしょうか。桜島は台風がくると、停電が多い地域です。TVなどからは情報が入らない可能性があります。	報道機関は一例として示しているところであり、SNSは迅速かつ効果的な情報発信手段として不可欠であることから、具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
18	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	大噴火で以下のケースなどについて、細かな記載の必要はありませんが、避難訓練の他に机上訓練も必要と思います。 ①1週間以上の停電 ②長期断水 ③噴火前後のパニック発生 ④噴煙が鹿児島市内側に来て、1週間程度は真っ暗な日が多い場合の道路啓開	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
19	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	「6 効果的な情報発信体制の構築」について、体制のみならず、「情報発信の充実・強化・精査」などを求めます。発信側だけでなく、受信側の多様性に配慮した情報のあり方が一層検討されるべきだと考えます。情報の約9割は視覚から受け取ると言われています。特に視覚的多様性に配慮された情報発信を求めます。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
20	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	いざという時に頼るサインやマップについては、障がい者団体による定期的な検証が必要と考える。今までも様々な対策はされているが実際には本人に届いていない声を多く聞く。また、とっさでも素早く理解できるよう「見易さ」「わかりやすさ」に更に配慮した、情報量、フォント、色彩等UD&CUDを取り入れた計画を望む。CUDに関しては国や放送機関との実績もあり、昨年交通政策課のセミナーでも来鹿されたCUDO（カラーユニバーサルデザイン機構）との連携も検討されたい。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
21	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	桜島地域は場所によっては携帯の電波が弱い所もあり、携帯会社によってはつながらない時もあるため、通信業者との連携は必要ないでしょうか。	具体的な取組を推進するにあたり参考とさせていただきます。	D

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
22	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	「4 火山の恵みや文化と火山防災を組み合わせた効果的な発信」について、可能ならば、「効果的な発信に取組み、火山を活かした地域ブランドイメージの構築に寄与する」など、地域の価値創造まで言及した姿勢を見せていただきたいです。このことは持続可能な地域に向けた愛着形成に寄与すると思われま	具体的な取組を推進するにあたり参考とさせていただきます。	D
23	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	世界で未経験の分野である都市部での多量降灰災害対策には、行政の内部にもスペシャリスト（防災）が必要と思います。高齢の経験者と中堅職員の共同作業が有効と思います。記載内容が上記を含んでいれば良好です。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
24	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	事業所・学校等のBCP策定についても触れたほうが良いと思います。以前、鹿大防災センターと南日本新聞と共同で、鹿児島湾岸事業所のアンケート調査を行ったことがありますが、ほとんどが考えてもいませんでした。復興を考える際、事業所の1日も早い再開が鍵を握ります。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
25	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	「1」について。「学校現場をはじめ」に含まれていると思いますが、島内児童生徒への防災教育についても記載があるとよいのではないのでしょうか。島内のどの小中学校でも共通の防災教育プログラムや児童生徒の発達段階に対応した学習プログラムなど、学校任せではない（または学校と協力した）取組みがあればと感じました。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
26	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱3】「鹿児島モデル」による世界貢献」について	「5 火山災害対策に関する視察の積極的な受入れ」も良いと思います。項目がありませんが、「桜島と鹿児島市のSNS情報発信者（世界各国語）」のうち、鹿児島市に観光客を呼び込みそうな発信者については、情報発信の支援をしたら如何でしょうか？桜島のように、都市近郊でしょっちゅう噴火する火山を見られるチャンスは世界にあまりありません。もっとも、観光の意見で防災には該当しないかもしれませんが。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
27	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱3】「鹿児島モデル」による世界貢献」について	異論ありません。桜島に関わる「火山専門家」等、防災関連の研究者が多様に多数いる必要があると思います。一方で、研究者の質も異なるので、うまくバランスをとる必要があると思います。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
28	「第5章 推進にあたって」について	具体的な役割分担の明記があれば良いかと思う。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
29	「第5章 推進にあたって」について	推進状況を公開頂き、関係団体の連携が最大効果を出しますようよろしくお願いします。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
30	「第5章 推進にあたって」について	関係者が異動になっても関わり続けられるような顔の見える関係の構築が重要と思います。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
31	構想全般について	桜島はすばらしい鹿児島の地域資源だと思います。関係人口の拡大は桜島にかかっているとも言えると思います。桜島の防災も含めた、地域資源を活用し、効果的な情報発信を駆使して地域の価値向上に一層努めていただきたいです。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
32	構想全般について	桜島は、火山活動の観測は京都大学火山活動研究センター、土石流対策は桜島国際火山砂防センター、行政は市役所、観光はビジターセンターなど個別に活動が行われており、横のつながりも保たれている。しかし、海外や国内の第三者が桜島を訪れた時、それらの機関を統合する建物や組織が存在しないことが、国内外における火山防災トップシティを目指すためには問題になっていると思います。そのためには、何らかの組織、建物、人材を手当てする必要があると思います。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
33	構想全般について	市民皆が参画するような目標も必要かと思えます。やはりそのためには、市民の代表者の組織ですとか、専門家や研究者の組織ですとかをつくり、これが機能するように組織することが大切ではないでしょうか。	具体的な取組を推進する上で参考にさせていただきます。	D
34	「第1章 構想策定の趣旨」について	「鹿児島市では、これまでハード・ソフトの両面から火山防災対策に取り組み、さまざまな試行錯誤を経ながらその充実に努めてきました。」とあるが、「その充実に」を「その対応に」に改めてはどうか。	火山防災対策の充実に努めてきたとの趣旨を示すものであるため、ご意見として承ります。	E
35	「第1章 構想策定の趣旨」について	「このような背景を踏まえ、市民と地域、事業者、研究機関・行政が一体となって、」とあるが、「このような背景を踏まえ、鹿児島市では、・・・」とする方がよい。	構想は本市における取組の方向性を示したものであるため、ご意見として承ります。	E
36	「第1章 構想策定の趣旨」について	「第五次鹿児島市総合計画後期基本計画における基本目標『健やかに暮らせる 安全で安心なまち』を推進する単位計画として、」とあるが、「単位計画」を「実施計画」とした方がわかりやすい。	ご意見として承ります。	E
37	「第1章 構想策定の趣旨」について	同4段落目。構想策定の目的が「防災力の底上げ」と「関係人口の拡大」が同じレベルで書かれているようで気になりました。「関係人口の拡大」は目的ではなく、防災に関心を持つ人が増えることでより安心・安全な街づくりにつなげるための手段ではないかと感じました。	ご意見として承ります。	E
38	「第1章 構想策定の趣旨」について	先進的な取組に敬意を表します。	ご意見として承ります。	E

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
39	「第1章 構 想策定の趣 旨」について	目的として関係人口の拡大を図るためとありますが、取組の3つの柱を推進するためにも世界的視野に立つことが必要ですので、私たち桜島ジオサルクも勉強をかさねて、お役に立てればと考えております。	ご意見として承ります。	E
40	「第2章 本 市を取り巻く 状況」につい て	インドネシアのシナブン火山も2010年に何百年ぶりかで噴火して以来、火砕流を出し続け、多くの犠牲者を出すとともに、未だに避難生活が続いています。こうした長期間の活動を続ける火山もあります。	ご意見として承ります。	E
41	「第2章 本 市を取り巻く 状況」につい て	「噴火の規模に応じた避難体制が整備されており、情報伝達や避難誘導、避難者の輸送、避難施設などが定められています。」とあるが、「避難者の輸送」を「避難者の輸送（島外への避難は、桜島フェリーで、悪天候ではバス事業者による陸路）」とした方がよい。	ご意見として承ります。	E
42	「第2章 本 市を取り巻く 状況」につい て	「およそ2か月に1回開催され、日ごろから、顔の見える関係づくりが進められています。」を「およそ2か月に1回開催され、関係機関と綿密な協議を行っている。」の方がわかりやすい。	ご意見として承ります。	E
43	「第2章 本 市を取り巻く 状況」につい て	歴史的に見て必ず再来する大規模噴火には、すべての関係人口の方々に具体的な心の準備が必要だと感じています。一方でこの地に暮らすことの恵まれていることの意味を理解することも必要です。活動のゴールをここに置きたいと思います。	ご意見として承ります。	E
44	「第2章 本 市を取り巻く 状況」につい て	4節に観光来訪者数が必要ではないか。	ここでは桜島における火山の恵みや資源についての活用状況について説明しているものであり、「観光来訪者数」は直接的に関連がないため、ご意見として承ります。	E

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
45	「第3章 基本的な考え方」について	目指す姿の中で、研究機関は記載されているが、防災関係機関が入っていないことから、「防災・研究機関」と追記してほしい。	「防災関係機関は、「行政」に含まれるものとしておりますので、ご意見として承ります。	E
46	「第3章 基本的な考え方」について	ジオパークの目的も同じく、大地と自然と暮らしのつながりから来る多様な世界観を認めて、最終的には人類の「持続的発展」に寄与することにあります。今回作成された考え方に対し、桜島ジオサルクが一助になればと考えます。	ご意見として承ります。	E
47	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	特に観光客の避難体制について、その再構築と継続的な点検改善は、桜島でジオツアーを行うジオサルクにとっても切実な課題です。また観光を行う上で、風評被害を避けるためには積極的な情報発信が欠かせません。是非、活動に参加させていただきたいと考えます。	ご意見として承ります。	E
48	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	「1 桜島島内の避難体制の総点検と再構築」、「3 大規模噴火時の速やかな復旧・復興体制の構築」等、記述されていることに異論はないが、実際に行うには現状把握も含めて、極めて多大な労力が必要でしょう。	ご意見として承ります。	E
49	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱1】大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す防災対策」について	桜島住民や市民は防災意識が高い。恐らく被害に遭う可能性が高いのは観光客や外国人だと思う。	ご意見として承ります。	E

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
50	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	「市民一人ひとりに加え、地域、事業者それぞれが、火山防災の担い手として取り組んでもらうための啓発活動に取り組みます。」とあるが、「市民のひろばや広報番組等の啓発活動に取り組みます。」とした方がよりわかりやすい。	啓発活動に係る具体的事業や取組については、構想の策定後に定めるアクションプランにおいてとりまとめることとしておりますので、ご意見として承ります。	E
51	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	「交流人口の拡大や地域活性化にもつながるよう効果的な発信に取り組めます。」とあるが、具体的に表示した方がよい。	啓発活動に係る具体的事業や取組については、構想の策定後に定めるアクションプランにおいてとりまとめることとしておりますので、ご意見として承ります。	E
52	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	特に市民や地域、事業者に向けた広報活動には、「恵み」「暮らし」「文化歴史」とそれを支える「大地と防災」が一体化した「火山文化」の理解が必要と考えます。そのことは、桜島ジオサルクの目指すところでもあります。是非協力させていただきたいと思えます。	ご意見として承ります。	E
53	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱2】次世代に「つなぐ」火山防災教育」について	火山博物館が欲しいものです。阿蘇や磐梯山等にはありますが、観光博物館です。県立博物館は大正噴火を契機に作られたそうですが、教員の異動先の一つにすぎず、不十分です。学術的にもしっかりした火山博物館が必要です。	ご意見として承ります。	E
54	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱3】「鹿児島モデル」による世界貢献」について	内外への発信は重要です。鹿児島は期待されていると思えます。	ご意見として承ります。	E

No.	項目	意見等の概要	意見等に対する検討結果	対応区分
55	「第4章 取組の柱と方向性【取組の柱3】「鹿児島モデル」による世界貢献」について	全国的/世界的な会議の後の現地研修会は、議論と現実問題をつなぐ重要なものと認識します。桜島ジオサルクも研鑽を積んで、より実践的で効果的なガイドができるようにしてまいります。是非協力させてください。	ご意見として承ります。	E
56	構想全般について	字面だけのきれい事ではなく、ぜひ実のあるものにしていただきたいと思います。	ご意見として承ります。	E
57	構想全般について	世界的活火山桜島とは共生することは大変なことですが、これは地球と共生する最先端でもありますので、地球人類代表として推進していただきますよう心からお願いいたします。	ご意見として承ります。	E
58	構想全般について	大変素晴らしいことだと思います。世界のトップシティを目指してほしいと思います。	ご意見として承ります。	E
59	その他	世界的に見てもパイオニアだと思います。大変でしょうが頑張ってください。	ご意見として承ります。	E